

# エネルギー研究開発拠点化計画をステージアップ

## ◎拠点化計画が目指すもの

### ● アジアの安全技術・人材育成への貢献

- 大学など関係機関の連携による人材育成の環境整備
- アジアをはじめとした海外研修生の受入れによる国際貢献



### ● 地域産業への貢献

- 原子力関連の技術移転や廃止措置による地域産業の発展
- 原子力・エネルギー関連企業の立地



### ● 国際的な研究機能の集積

- 研究機関等の集積による国際的な研究の推進
- 国内外から優秀な研究者が集う交流の場の形成



## 平成22年度推進方針の概要

## 人材育成の拠点

### 【新】国際原子力人材育成センター

本県を国際的な原子力人材育成の拠点としていくため、国内外の研修生等の受入れ総合窓口となる「国際原子力人材育成センター(仮称)」を設置(平成23年4月)  
(県、若狭湾エネルギー研究センター、国、電力事業者、日本原子力研究開発機構等)

### 原子力安全研修施設

国内外の原子力関係の技術者、学生を対象とした人材育成の拠点となる原子力安全研修施設を整備(平成24年度運用開始)  
(日本原子力発電)

### 広域の連携大学拠点の形成

- 「福井大学附属国際原子力工学研究所」を敦賀駅西地区に移設(平成23年中)
- 福井大学を中核に関西・中京圏の大学との広域の連携大学の拠点を敦賀市に形成  
(福井大学、敦賀市、国、日本原子力研究開発機構)

### 嶺南エネルギー研究センター

- 太陽電池等の新エネルギー分野について、大学等と基礎的な共同研究を実施
- 【新】若狭地域に大規模太陽光発電設備を整備(平成24年度目途)  
(関西電力)

### 高速増殖炉(FBR)を中心とした国際的研究開発拠点の形成

- FBRプラント工学研究センタープラントの実際の環境を模擬できる「プラント実環境研究施設」(平成24年度目途)および日仏米で新型燃料を開発する「新型燃料研究開発施設」(平成27年度目途)を整備
- プラント技術産学共同開発センター(仮称)・平成24年度を目途に設置し、プラントの運用技術等を地域産業の発展につなげる研究開発を実施  
(日本原子力研究開発機構、国)

### レーザー共同研究所

県内企業や大学等との共同研究を通じて、レーザー関連技術を産業や医療分野に応用展開(平成24年度にプラント技術産学共同開発センターに移転)  
(日本原子力研究開発機構)

### 福井クールアース・次世代エネルギー産業化プロジェクト

電力貯蔵分野、熱交換システム分野など、4つの分野において産業化を目指した産学官共同研究を実施  
(関西電力、県、若狭湾エネルギー研究センター、国、県内外企業等)

## 研究機能の集積

## 産業への貢献

### 安全・安心の確保

- 1: 高経年化研究体制
- 2: 地域の安全医療システムの整備
- 3: 陽子線がん治療を中心としたがんの研究治療施設の整備

### 人材の育成・交流

- 1: 県内企業の技術者の技能向上に向けた技術研修の実施
- 2: 県内大学における原子力・エネルギー教育体制の強化
- 3: 小学校、中学校、高等学校における原子力・エネルギー教育の充実
- 4: 国際原子力情報・研修センター
- 5: 国等による海外研修生の受入れ促進
- 6: 国際会議等の誘致

### 研究開発機能の強化

- 1: 高速増殖炉研究開発センター
- 2: 原子炉廃止措置研究開発センター
- 3: 若狭湾エネルギー研究センター
- 4: 関西・中京圏を含めた県内外の大学や研究機関との連携の促進

### 産業の創出・育成

- 1: 産学官連携による技術移転体制の構築
- 2: 原子力発電所の資源を活用した新産業の創出
- 3: 企業誘致の推進